

子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ

子どもゆめ基金 ガイド



How To 子どもゆめ基金

▶▶▶申請までの流れ

子どもの体験活動・読書活動への
助成を行っています。

Guide
2017年

採択情報満載!!

こんな使い方がある!!
助成活動事例を紹介



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

「子どもゆめ基金」について.....	1
「子どもゆめ基金」の概要.....	2
子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ.....	4
子どもゆめ基金ガイドの活用方法.....	5
「体験の風をおこそう」運動.....	6

平成28年度助成活動事例

○子供の体験活動

【自然体験】

- 日本三名山 白山を登ろう！ ●
〈夕日寺自然体験実行委員会〉..... 8
- 夕張川・川の指導者養成講座 ●
〈特定非営利活動法人雨煙別学校〉..... 10

【科学体験】

- ためしてナットク「雪と氷のふしぎ」 ●
〈子どもと雪氷を楽しむ会〉..... 12

【交流体験】

- 田舎暮らし通学学舎(志学舎) ●
〈志布志市開田の村管理組合〉..... 14
- 児童養護施設等に暮らす子どもたちとの
音楽・ダンスプロジェクト ●
〈リズム・ミーツ・ピープル〉..... 16

【社会奉仕】

- 高校生による第7回震災復興支援現地ボランティア ●
〈がんばろう！つばさネットワーク〉..... 18

【職場体験】

- KOJIMA ドリームキッズタウンフェス2016 ●
〈一般社団法人 児島青年会議所〉..... 20

【その他の体験】

- ミュージアムキッズ！全国フェア ●
〈こどもひかりプロジェクト〉..... 22

○子供の読書活動

【読 書】

- 親子で楽しむのはな文庫 おはなし会 ●
〈のはな文庫〉..... 24

コラム(絵本専門士)..... 26

○教材開発・普及活動

- 「海でも、海に行かなくてもできる！」
多様な研究者と作る体験型海洋学習教材『Lab To Class』 ●
〈特定非営利活動法人 海の世界教育NPO bridge〉..... 28

平成28年度助成活動で開発された教材一覧 29

平成28年度普及啓発事業(日中韓子ども童話交流事業) ... 30

平成28・29年度 申請・採択状況 32

子どもゆめ基金へのご協力を

「子どもゆめ基金」へ寄附いただいた皆様..... 裏表紙



* 「子どもゆめ基金」について *

「子どもゆめ基金」は、衆議院・参議院の超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子供の未来のために有意義な基金の創設を発意し、平成13年4月に創設されたものです。

かつての子供たちは、自然の中や地域において様々な自然体験・社会体験を日常的に積み重ねて成長する機会に恵まれていました。しかしながら、今の子供たちをめぐる環境は、心や体を鍛えるための負荷がかからない「無重力状態」であるとともに、保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡、学校の判断によって、体験活動の機会に「体験格差」が生じているとの指摘もあります。（平成25年度中教審答申より）

体験活動に関する調査（国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」）では、「子供の頃の体験活動が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い」、「体験を多く行っている青少年ほど、他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣が身についており、自己肯定感も高い傾向にある」など、子供の頃の体験は、その後の人生に影響することが示唆される結果が出ています。

体験活動・読書活動の推進に向けた様々な取り組みが求められている中、子どもゆめ基金は、未来を担う夢をもった子供の健全育成を推進するため、地域の草の根団体等が実施する様々な体験活動や、特色ある新たな取り組み、体験活動・読書活動の振興を図る取り組みの裾野を広げる様な活動を中心に、支援を行っています。

体験活動・読書活動の推進に向けた様々な取り組みが求められている中、子どもゆめ基金は、未来を担う夢をもった子供の健全育成を推進するため、地域の草の根団体等が実施する様々な体験活動や、特色ある新たな取り組み、体験活動・読書活動の振興を図る取り組みの裾野を広げる様な活動を中心に、支援を行っています。

民間からの寄附

独立行政法人
国立青少年教育振興機構

子どもゆめ基金

助成



子供の体験活動を支援

助成



子供の読書活動を支援



* 「子どもゆめ基金」の概要 *



●助成金の交付

* 助成の対象となる活動 *

子供の体験活動

- ・キャンプや自然観察などの自然体験活動
- ・科学実験教室等の科学体験活動
- ・文化・芸術、スポーツ等を通じ交流を目的とする体験活動
- ・清掃活動等の社会奉仕体験活動
- ・地域の商店街・農業・漁業等の職場体験活動
- ・子供の体験活動の指導者養成 など

子供の読書活動

- ・読み聞かせ会、読書会活動
- ・子供の読書活動の振興を図るフォーラムの開催など

子供向け教材開発・普及活動

- ・インターネット等で使用可能なデジタル教材を開発し普及する活動

* 助成の対象となる団体 *

青少年教育に関する団体（公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人、特定非営利活動法人、法人格を有しないが青少年のために活動する団体）

● 助成金の額と審査方法 ●

子どもゆめ基金では、体験活動等の分野において実務経験を持ち、青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、審査を行います。

その審査にあたっては、各団体から提出された申請書を専門的見地から合議により評価し、採択する活動及び助成金額を決定します。

* 理事長 *

① 諮問

④ 答申

* 審査委員会 *

② 付託

③ 報告

* 専門委員会 *

自然体験活動
専門委員会

科学体験活動
専門委員会

交流体験活動
専門委員会

社会奉仕、職場、
総合・その他の体験活動
専門委員会

読書活動
専門委員会

教材開発・
普及活動
専門委員会

●困難な環境にある子供の体験活動や読書活動への助成

* 背景 *

我が国の子供の相対的貧困率は、年々上昇しており、世代を超えた「貧困の連鎖」が指摘されるなど、子供の貧困は喫緊の課題であるとして、平成26年8月に「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定され、国において総合的な取組が推進されることとなりました。このような国の動向を踏まえ、子どもゆめ基金では経済的に困難な状況にある子供たちを対象に以下の取組を始めました。

* 取組の概要 *

民間団体が、経済的に困難な状況にある子供を対象とした体験活動や読書活動を行う場合、通常は助成対象外とされている参加者の交通費・宿泊費などの自己負担経費について、特に助成の対象とすることで、参加する子供の負担が軽減されるようにしました。その結果、平成29年度子どもゆめ基金助成活動には、222件の申請があり、このうち貧困対策に適合した申請を144件採択しました。

* 助成の対象となる活動 *

この助成の対象となる活動は、以下1、2のとおりです。

1. 児童養護施設や母子生活支援施設をはじめとする経済的に困難な状況にある子供の健やかな育成を目的としている民間の機関・団体が行う体験活動や読書活動
2. 上記1. 以外の民間の機関・団体が、経済的に困難な状況にある子供の健やかな育成を目的として、児童養護施設や母子生活支援施設、地方公共団体などと協力して行う体験活動や読書活動

詳しくは、子どもゆめ基金募集案内をご覧ください。子どもゆめ基金部助成課までお問い合わせください。

普及啓発

子どもゆめ基金では、子供の体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発を行っています。
(子どもゆめ基金ガイドの作成、普及啓発事業の実施等)



* 子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ *

—申請までの流れ—

初めての団体、小さな団体のみなさまも、ご応募お待ちしております。

企画立案はどうすれば…

「どんな活動があるのかな？」

→子どもゆめ基金ガイドを読んで、これから企画する活動の参考にしてみましょう。

◎過去の子どもゆめ基金ガイドもホームページからご覧になれます。

URL : <http://yumekikin.niye.go.jp/download/index.html>

実際に申請してみたい…

「子どもゆめ基金のことがもっと知りたい！」

→子どもゆめ基金募集説明会に参加してみませんか？

◎毎年9～11月にかけて全国40都市以上で実施しています。会場では、申請のガイダンスや個別質問回答コーナーを設けています。

子どもゆめ基金部主催説明会

平成29年 9月29日（金） オリンピックセンター （東京都渋谷区） 13：30～

平成29年10月20日（金） 天満研修センター （大阪府大阪市） 13：30～

その他の会場や会場の詳細はホームページの注目情報からご確認ください。

URL : <http://yumekikin.niye.go.jp/>

◎さらに、申請にあたってわからないことや相談したいことがあれば、子どもゆめ基金までご連絡ください。（メールでのお問い合わせ：yume@niye.go.jp、電話でのお問い合わせ：0120-57-9081月～金 AM9：00～PM5：45）

募集期間は？

「子どもゆめ基金の募集期間」

一次募集期間 郵送 平成29年10月2日（月）～11月14日（火）消印有効

電子申請 平成29年10月2日（月）～11月28日（火）17：00締切

二次募集期間 郵送 平成30年5月1日（火）～6月5日（火）消印有効

電子申請 平成30年5月1日（火）～6月19日（火）17：00締切

◎二次募集は市区町村規模・申請額50万円以下（様式B）のみとなります。

◎直接持参する場合は、平日（土日祝除く）9：00～17：45まで受け付けます。

◎初めて電子申請される場合は、申請の前にID申請が必要となります。

募集案内や申請書は、子どもゆめ基金ホームページからダウンロードできます。従来の郵送による申請に加え、電子申請システムを利用した申請も可能です。一度電子申請で手続をとると、実績報告書の作成や次回以降の申請も簡単にできます。



「体験の風をおこそう」運動[®]

「体験の風をおこそう」運動とは

近年、社会が豊かで便利になるなかで、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している傾向にあります。「体験の風をおこそう」運動は、子供の健やかな成長に、体験がいかに大切かを広く発信し、社会全体で体験活動を推進する気運を高める運動です。

青少年期の体験が大切な理由とは

- 子供の頃に、家庭や地域などで様々な体験をした人ほど、大人になってからの資質・能力が高い傾向にあります。
- 「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」と回答している子供の方が、学力調査の平均正答率が高い傾向にあります。

※詳しくは次のページをご覧ください。



「体験の風をおこそう」運動に参加してみませんか。

体験の風をおこそう推進月間事業

体験の風をおこそう運動推進委員会（事務局：国立青少年教育振興機構）では、毎年10月を「体験の風をおこそう推進月間」と定め、事業統一日（平成29年度は10月28日（土））を中心に、全国各地で子供たちやその家族と一緒に体験できる機会と場の拡充及びその社会的気運の醸成に努めています。

そこで、全国の青少年団体等に呼びかけ、10月に「体験の風をおこそう」運動に賛同して実施していただける事業を募集しています。登録は、「体験の風」HP (<http://taikennokaze.jp/download>) より、要項をご確認の上、登録申込書に必要事項をご記入した後、メール（taikennokaze-suishin@niye.go.jp）またはFAX（03-6407-7699）にてご提出ください。

子ども体験遊びリンピック

体験の風をおこそう推進月間事業のうち、特に競技性のある体験活動を幼児、小学生、中学生、親子等を対象に実施する事業を「子ども体験遊びリンピック」として併せて実施しています。

※上記の事業に参加いただける団体には、希望により「普及啓発ちらし」や「のぼり旗」を、また子ども体験遊びリンピックの事業を10月（推進月間）に実施する参加団体には、同委員会の松本零士委員長（漫画家）がデザインしたメダルと賞状をお送りします。

<普及啓発ちらし>



<のぼり旗>



<メダルと賞状>



本運動の普及啓発に関する広報物には、本運動のロゴや応援団（ガチャピン・ムック）の画像をご利用いただくことができます。

<ロゴ>

「体験の風をおこそう」運動[®]



←エントリー方法等の詳しい情報は、当機構のホームページにある左記バナーからご覧になれます。

<応援団画像>



ガイドブック 「体験・遊びナビゲーター」



国立青少年教育振興機構では、自然の中での体験や遊びを紹介したガイドブック「体験・遊びナビゲーター」を作成しました。ホームページからダウンロードできます。

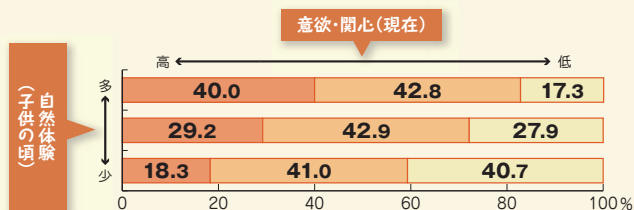
<http://www.niye.go.jp/taikenasobi/>

子供の頃の体験は豊かな人生の基盤になります！

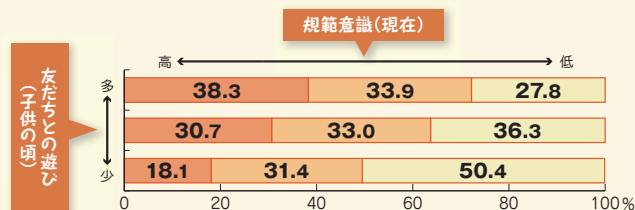
子供の頃の様々な体験が豊富な人ほど、大人になってからのやる気や生きがい、モラルや人間関係能力などの資質・能力が高い傾向にあります。

子供たちの健やかな成長には普段からの、友だちとの遊び、お手伝いや地域での活動などが大切です。

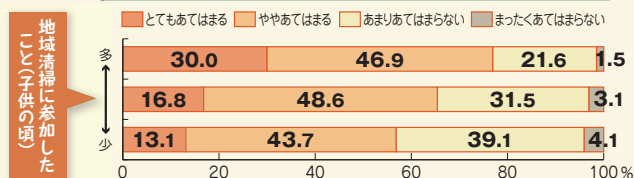
子供の頃の「自然体験」と現在の「意欲・関心」との関係



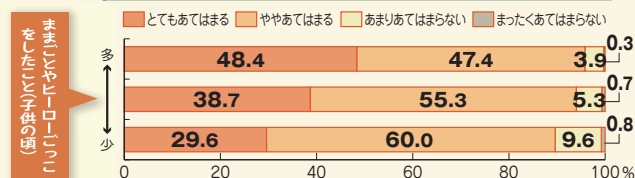
子供の頃の「友だちとの遊び」と現在の「規範意識」との関係



経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい(現在)



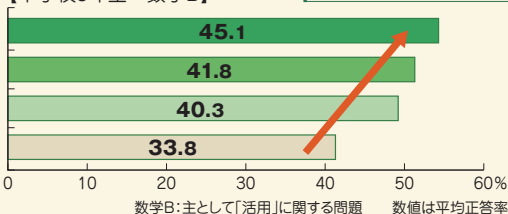
電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う(現在)



出典 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」 国立青少年教育振興機構 平成22年

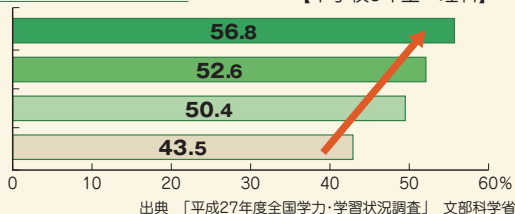
「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」と回答している子供の方が、学力調査の平均正答率が高い傾向にあります。

【中学校3年生 数学B】



自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある

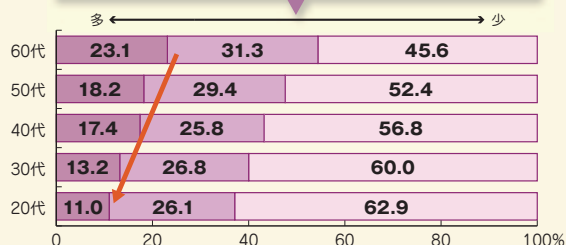
【中学校3年生 理科】



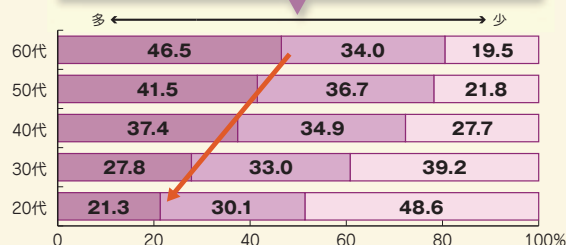
出典 「平成27年度全国学力・学習状況調査」 文部科学省

子供たちが、自然のなかや、友だちと遊ぶなどといった体験の機会が減少しています。

中学生の頃に海や川で貝を採ったり魚を釣ったりしたこと推移



小学校4～6年生の頃にすもうや、おしくらまんじゅうをしたことの推移



出典 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」 国立青少年教育振興機構 平成22年

体験の風をおこそう運動推進委員会 構成団体

ガールスカウト日本連盟 国立青少年教育振興機構 自然体験活動推進協議会 社会通信教育協会 修養団 全国学校栄養士協議会 全国公民館連合会 全国子ども会連合会
 全国児童養護施設協議会 全国スポーツ推進委員連合 全国ラジオ体操連盟 日本一輪車協会 日本キャンプ協会 日本子守唄協会 日本青年団協議会
 日本体育協会日本スポーツ少年団 日本PTA全国協議会 日本ユースホステル協会 日本レクリエーション協会 ハーモニセンター ボイスカウト日本連盟

◎ 日本三名山 白山を登ろう！ ◎

実施団体／夕日寺自然体験実行委員会

- 活動期間／7月2日（土）～8月3日（水）日帰り 2回 1泊2日 1回
- 活動場所／石川県金沢市夕日寺町 夕日寺健民自然園、石川県 医王山、石川県 白山
- 募集地域／金沢市、能美市、野々市市、津幡町、白山市
- 募集対象／小学生（5～6年生）、中学生、高校生
- 募集方法／チラシ（配布先：公民館、学校、図書館）
- 構成員数／4人
- 連絡先／夕日寺自然体験実行委員会
MAIL：info@yhdr.jp 事務局：中川



医王山登山 小雨の中、ルートを確認して、さあ出発！



白山登山 白山神社の鳥居をくぐって白山登山に出発！

*活動のわらいとポイント

一歩一歩自分の足で歩いて登頂したときの感動や達成感を参加者・スタッフ全員で分かち合い、生きる力を養います。

具体的なプログラム名	主なポイント
医王山登山	日帰りの登山を行う。金沢市内では最高峰の医王山登山をとおり、白山登山への気持ちを高め、登ることができるのか？といった不安を取り除くと同時に装備の点検や歩き方、水分のとり方など登山時の注意点などを指導する。
白山登山	1泊2日の白山登山を行う。1日目はおよそ7時間程度かけて登り、白山頂上手前の室堂へ宿泊。翌日、日の出前から登り、白山頂上での御来光をみて下山。気圧や温度がおおきく変化する中での長時間の登山は大きなチャレンジになるが、それを乗り越えて頂上に立ったときの感動を分かち合う。

*参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 保護者には活動ごとに健康調査票への記入をお願いするとともに、活動前に本人にも確認することで自分自身の体調管理に万全を期すという意識を持ってもらう。日帰りの医王山登山を事前に実施することで、装備品の使い方や歩き方、ペース配分など基本的な登山技術を学ぶとともに、白山登山への不安を軽減する。
- 【健康管理】 白山登山は長時間の活動になるので、熱中症や高山病の危険が伴うため、登山途中での十分な休息やエネルギー補給に気を配る。

*活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7月2日	13:00～17:00	親子オリエンテーション 夕日寺健民自然園体験工房集合 スタッフ・参加者自己紹介 登山計画の資料を配付し説明、健康状態のチェック、質疑応答承諾書への署名 登山の注意点や必要な準備品などの資料を配付し説明 実際の装備を見せながらの説明、質疑応答
7月17日	8:30～	医王山登山 夕日寺健民自然園駐車場集合、健康チェック・装備チェック、医王の里へ移動 医王山登山：医王の里～西尾平～しがらくび～観休憩所～観乗越～白元山(お昼ご飯)～しがらくび～西尾平～医王の里 医王の里出発、夕日寺健民自然園へ移動
	15:30～	ふりかえり、次のオリエンテーション、解散
8月2日	4:00～	白山登山初日 夕日寺健民自然園駐車場集合、健康チェック・装備チェック、白山登山口(別当出合)へバス移動(道の駅しらやまさん・道の駅瀬名高原でトイレタイム、白峰派出所に登山届け提出)
	7:00～	白山登山口(別当出合)で最終の健康チェック・装備チェックし、準備体操・登山開始 別当出合～中飯場(トイレ休憩)～別当観～甚之助小屋(トイレ休憩・昼食) 甚之助小屋～南竜分岐～黒ボコ岩～五葉坂～室堂
	15:00	自由時間、夕食、翌日の説明
	20:00	就寝
8月3日	3:00～	白山登山2日目 起床、健康チェック・装備チェック、白山頂上へ登山開始
	3:30～	室堂～白山頂上、ご来光、白山奥宮お参り、記念写真などの後、室堂へ下山開始、白山頂上～室堂 朝食、健康チェック・装備チェックし、下山開始 室堂～五葉坂～くろぼこ岩～南竜分岐～甚之助小屋(昼食)～中飯場～別当出合 健康チェックし、バスで夕日寺健民自然園駐車場へ移動
	17:00	夕日寺健民自然園駐車場でふりかえり、解散式後、解散

*活動の成果と課題

日帰りの医王山登山は天候に恵まれず小雨の中の登山になりましたが、特に雨に対する装備品の使い方や心構えができ、白山登山に向けての準備としてとても役に立ちました。白山登山は片道7時間にもおよぶ登山でしたが、全員が頂上に立つことができ、今までにはない達成感や感動を体験することができました。下山後のふりかえりでは、登りでの苦しい体験を口にする参加者が多かったですが、最後は「楽しかったのもう一度登ってみたい」「他の山に登ってみたい」など前向きな意見でしめくられていました。日帰り登山を取り入れたことで、参加者は登山技術を取得し不安を取り除くことができ、スタッフは参加者の力量を見極めることができたなど双方により結果をもたらしましたが、その分活動期間が長くなり、全日程参加できるスタッフの確保の難しさが課題として残りました。



白山登山 甚之助避難小屋で休憩、やっと半分かな？



白山登山 登りの難所の十二曲がり、下りでも気を抜けない

*団体概要

平成17年から文部科学省「放課後子どもの居場所づくり推進事業」として金沢市立夕日寺小学校の児童を対象に「夕日体験教室」が開催され、その教室のひとつ「自然体験」を小学校と協力し実施しました。このことがきっかけとなり設立されました。

金沢市の中心部から一番近い里山、夕日寺健民自然園をホームグラウンドに、小さなお子さんから大人まであらゆる世代に、自然、環境、命のつながり、心と身体の健康をテーマとした自然体験の機会を提供しています。

2歳～3歳の幼児とその保護者向けの「おさんぽくらぶ」、年中～年長の園児向けの「ちびっこ探検隊」、小学生対象の「ゆめたね☆キッズレンジャー」、大人向けの「トレジャー倶楽部」などの定期的な活動のほか、竹林整備ボランティア(小学生以上の親子)などの不定期活動、また、夕日寺健民自然園主催の「夕日寺の森フェスタ」への協力や石川県主催の「いしかわ環境フェア・里山里海展」への出展を行っています。里山保全と人が育ちあう学びの場づくりを確実に次の世代へつなぎ、持続可能な循環型社会の実現を目指しています。

◎ 夕張川・川の指導者養成講座 ◎

実施団体／特定非営利活動法人雨煙別学校

- 活動期間／6月25日（土）～6月26日（日）2回
- 活動場所／雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスおよび夕張川流域各所（長沼頭首工～小林酒造、南幌清幌床止）
- 募集地域／北海道夕張郡栗山町および周辺市町村または札幌圏 ●募集対象／一般成人
- 募集方法／・チラシ（配布先：雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス、生きものの里ふれあいプラザ、酪農学園大学、栗山町役場等）
 - ・ポスター（掲示先：雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス、生きものの里ふれあいプラザ等）
 - ・広報誌（広報くりやま） ・その他（当法人 HP、当法人を含む協議会が持つフェイスブック）
- 構成員数／14人
- 連絡先／〒069-1503 北海道夕張郡栗山町雨煙別1-4 雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス
TEL/FAX：0123-72-1696 MAIL：info@uenbetsu.jp ホームページ：http://uenbetsu.jp



実習①② 生きものの捕獲＋川歩き
の補完



実習③ ボート操作を学ぶ 落水者の救助
訓練

*活動のねらいとポイント

川の成り立ちや機能、生きもの等について学び、活動の指導及び活動フィールドの保全を担う人材を育成します。

具体的なプログラム名	主なポイント
川のつくりを知る	川を歩きながら瀬・淵等の構造や成り立ち、水深や川幅の違いによる流速等の変化について学ぶ。また、改修河川と自然河川の違いについて知る。
夕張川の生きものしらべ	実際に学校授業等で活用されているプログラムを体験する。環境と生きものとの関わりを学ぶとともに、種名や生態等指導に必要な基礎知識を得る。
ボート・カヌーにおける安全管理	実際の事故や訴訟、賠償などについての事例紹介から、指導者の負うリスクや責任について知る。

*参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 外部指導者を交えて事前下見および打ち合わせを複数回実施し無理のないコース等を設定する。当日も下見を行い、十分な協議のもとに開講の是非を決定する。事前に河川管理者とも情報交換を行う。また、実地研修中には安全管理の専門員（各種救急法・安全講習等を受講済みの者）を3名以上配置する。
- 【健康管理】 事前に体調チェックを行い、実習中は上記専門員が常に受講者を観察・指導する。万一体調を崩した受講者には講座を中断させる。募集・応募時に講座内容および服装等準備物を十分に説明し、受講者自身にも自己管理を徹底させ決して無理をさせない。現地にテントを用意し、実習後は直ちに乾いた衣服に着替えさせる。

*活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
6月25日	9:30	受付
	10:00	講義①「川の指導者としての心得」
	11:00	講義②「夕張川を知る」
	12:00	昼食
	13:00	移動
	13:30	実習①「川のつくりを知る」 ・ライフジャケットを着て川を流れる ・スローロープでの救助 ・受講者は流れの強さや変化を見学するとともに、スローロープを用いた救助
	15:15	実習②「夕張川の生きもののしらべ」 ・たも網を使って生きものの採取を体験し講師による種類や生態についての解説
	16:15	移動
	16:30	振り返り
	17:00	解散
6月26日	9:30	集合
	10:00	講義③「ボート・カヌーにおける安全管理」 ・事故事例紹介 ・指導者の負うリスクや責任(実際の訴訟や賠償の事例紹介) ・事前の情報共有等、消防署等との連携 ・低体温症の症状やリスク、予防 ・構造物や岩などを回避するルート取り ・スローロープ等、レスキュー用品の紹介と使い方 ・体験場所の設備や準備物(トイレや着替え、テント、日除けタープ、水分補給用品などなど) ・下見や事前準備の重要性
	12:00	昼食
	13:00	移動
	13:30	実習③「ボート操作を学ぶ」
	16:15	移動
	16:30	振り返り
	17:00	解散

*活動の成果と課題

新規受講者が9名あり、新たな担い手を育成する目的を果たすことが出来ました。また、周辺町村から3名受講し、夕張川流域単位で川への関心を高めることが出来たことは、少数ながら重要な成果であると考えます。さらに、河川事務所や町役場所属の受講者が多く、夕張川での体験活動に対する行政機関からの関心・評価の高さがうかがえました。札幌市からの参加もあり、ポスターやチラシについて一定の効果はありました。

しかし、流域外や一般からの応募が例年よりも少なく、今後の課題となりました。なお、増水によって講習内容を多少変更したが、出水時の水流の変化や生き物の反応などについて、座学で学んだ内容を実感出来る良い機会となりました。



講義③ カヌー・ボートにおける安全管理



実習①③ 前日出来なかった川流れの補完兼スローロープによる救助訓練

*団体概要

栗山町は、地域の自然環境を活かした教育活動（ふるさと教育）を推進しています。当法人は「ふるさと体験教育支援事業」を受託し、自然体験プログラムの開発及び利用の促進を行っています。学習指導要領に基づいて企画した「ふるさと自然体験プログラム」は町内小中学校の授業等で活用されています。年々需要が増しており、平成28年度には約160件の利用がありました。また、町外や一般での利用も拡大傾向にあります。自然体験活動への期待が高まる一方、指導者の育成や技術の継承、活動フィールドの保全が課題となっています。

また当法人は、旧雨煙別小学校をリノベーションした体験型宿泊施設「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」を管理・運営し、環境教育をはじめ、文化・スポーツなど様々な活動の拠点として活用しております。例えば、上記事業における小学校の宿泊学習、あるいは各種スポーツ少年団の合宿や企業研修の受け入れなど多用途に対応しています。

なお、当法人は理事・監査7名（70代1名、60代6名、50代1名）の他、自然体験および施設運営の職員7名（60代2名、50代1名、30代4名）で構成されています（平成29年現在）。

◎ ためしてナットク「雪と氷のふしぎ」◎

実施団体／子どもと雪氷を楽しむ会

- 活動期間／10月2日（日）1回
- 活動場所／名古屋大学豊田講堂ホワイエ・アトリウム
- 募集地域／愛知県名古屋市およびその近隣市町村
- 募集対象／小学生、中学生、保護者
- 募集方法／・チラシ（配布先：名古屋市内の公立小学校・中学校） ・その他（地元フリーペーパー）
- 構成員数／21人
- 連絡先／〒721-0964 広島県福山市港町2-19-1 福山市立大学 都市経営学部 澤田 結基



「吹雪を体験しよう!!」の様子。大学院生が考えた実験です。



Dr. ナダレンジャー＆ナダレンコの自然災害科学実験ショー

*活動のわらいとポイント

雪と氷をテーマに、研究者が創意工夫した科学ショーや実験を行い、子どもの科学する心を触発します。

具体的なプログラム名	主なポイント
Dr. ナダレンジャー＆ナダレンコの自然災害科学実験ショー	実験で自然災害が起きる様子をショーとして観察した後、大きなビニール筒に入った雪が子供たちを襲う雪崩実験を体験する。
工作コーナー	「雪結晶の分類ストラップ作り」など、様々な雪と氷にまつわる工作コーナーを体験し、楽しみながら考える。
研究者の実験ブース	「水の変身を観察しよう」など、氷の物理や化学、気象に関する実験を体験する。

*参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 事前に会場の下見を行い、安全管理上の危険箇所を確認し、当日の怪我・事故をカバーするため傷害保険に加入する。
また、活動中に目が行き届くように、サポートの学生を配置する。
- 【健康管理】 当該事業は、基本的に小学生に対しては保護者同伴を求めることとし、受付時に体調異常があれば申し出るように伝える。

*活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
10月2日	9:00	講師陣及び助手・スタッフ 現地集合、打合せ及び会場確認
	10:00	受付開始(資料配布、注意事項伝達) この間、合計18件の実験ブース・サイエンスショーを設けました。 【Dr.ナダレンジャー&ナダレンコの自然災害科学実験ショー】 【工作コーナー】 ・雪結晶の分類ストラップ作り ・クラフトパンチで雪結晶 ・エッキーをつくろう ・☆雪の結晶を作ってみよう!! ☆ ・アイロンビーズで雪結晶のアクセサリを作ろう! ・雪結晶のしおりを作ろう ・紋切りあそび「雪結晶の巻」 【研究者の実験ブース】 ・氷をつろう ・氷の冷熱で発電?—ペルチェ素子を使った実験— ・きれいでふしぎな氷実験3題 ・0℃の氷は0℃の水より冷たい? ・水の変身を観察しよう ・なだれをまねる —室内でなだれを体験— ・氷銃 ・「天から送られた手紙」に描かれた暗号を探そう! ・吹雪を体験しよう!! ・雪の結晶の成長
	15:00	受付終了、会場撤収

*活動の成果と課題

名古屋市内の小中学校にイベントのチラシを配布し、634名の来場がありました。

本活動では、雪と氷に関する実験やゲーム、工作、そしてサイエンスショーを実施しました。いずれも水と氷の物理、雪が降るしくみや、雪によって引き起こされる災害に関する研究者の科学的知見に裏付けされた内容になっています。このイベントを通じて、子どもたちのほか活動の様子を見守る保護者の方々へも、科学のおもしろさを伝えることができたのではないかと考えています。

私たちの取り組みは、研究者自らが研究成果を市民へ伝えるアウトリーチ活動に位置づけられます。可能なイベントの機会は限られており、活動の幅を広げていくことが大きな課題です。



キーホルダーをつくる子ども



ビーズで雪結晶の形ができるかな?

*団体概要

本会は、日本雪氷学会の会員（研究者）が中心となって2013年9月に発足した、子どもへのアウトリーチ活動を目的とした団体です。日本雪氷学会では、従来から学会員が講師となって子供たちに雪・氷を題材とした参加型・体験型の科学イベントを実施してきており、本会はこの科学イベントを実質的に企画・運営してきた会員有志で立ち上げたものです。

◎ 田舎暮らし通学学舎（志学舎） ◎

実施団体／志布志市開田の村管理組合

- 活動期間／5月27日（金）～7月9日（土）6泊7日 2回
- 活動場所／志布志市有明農業歴史資料館
- 募集地域／鹿児島県志布志市
- 募集対象／小学生（4～6年生）
- 募集方法／チラシ（配布先：市内小学校該当児童全員）
- 構成員数／8人
- 連絡先／志布志市開田の村管理組合 TEL：099－471－4343



ただいま！帰ってきたら、名札を裏返します



みんなで協力してご飯の準備

*活動のわらいとポイント

集団生活を通して、「ひとりはおみんなのために、みんなはひとりのために」をスローガンに自立・忍耐・感謝の意味を理解します。

具体的なプログラム名	主なポイント
岳野山登山	日帰り登山にチャレンジする。みんなで協力して登頂し、達成感を味わうとともに、忍耐力を養う。
五右衛門風呂の体験	薪割り、風呂焚き、入浴、ごはんのかまど炊きを通じ、昔にタイムスリップして現代を見つめ、将来のビジョンを描いてもらう。また、協力することによって、子供同士・世代間の交流を深める。
学習	教職経験者による学習指導を実施。また、毎日の出来事、楽しかったこと、嫌なことなどを日記に記入し、自己の反省やすべての人に感謝する心を養い自己研鑽に努めさせる。

*参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 事前説明会を対象者及び保護者同伴で実施し、事業の趣旨、安全対策、注意事項プログラム等を十分説明する。また、期間中は、野外活動等の前には安全対策と注意点を指導する。
- 【健康管理】 保護者に健康調査票を記入してもらい、説明会時にヒヤリングを行って、病気等の確認、投薬等が必要な児童については注意点を聞く。期間中は、各班1名を保健係とし、朝・夜に健康チェックを行う。

*活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
5月27日	19:00	保護者同伴の説明会
6月5日	13:30	入舎式・オリエンテーション
	14:30	岳野山登山
	17:00	五右衛門風呂用薪割り、風呂焚き、ごはんのかまど炊き、清掃
	18:00	入浴、食事
	20:00	学習・夜の集い
	22:00	就寝
6月6日～ 6月10日	6:00	起床・朝の集い・朝食
	7:15	登校
	16:50	各学校へ迎え、開田の村体験館に帰宅
	17:00	五右衛門風呂用薪割り、風呂焚き、ごはんのかまど炊き、清掃
	18:00	入浴、食事
	20:00	学習・夜の集い
	22:00	就寝
6月11日	6:00	起床・朝の集い・朝食
	7:15	登校
	11:50	各学校へ迎え、開田の村体験館に帰宅
	12:30	昼食・片づけ
	13:30	退舎式
		※同様の日程で7月3日～7月9日まで実施



学習の時間

*活動の成果と課題

市内の小学校16校から、24名の子供たちが参加してくれました。自分の洗濯物を自分でたたんだり、友だちと協力して薪割りや五右衛門風呂の風呂焚きやかまど炊きをすることによって、自主性・協調性・社会性などの「生きる力」を身につけ、子供たちは日を増すごとに自信をつけていきました。面白かったからまた体験したいとか、かまど炊きごはんが美味しかったからまた参加したい、もっと一緒に過ごしたい、という感想が多く、目的は十分に達成できたと思います。

課題としては、年に2回実施していますが、毎回希望者が多く、抽選漏れの子供たちがたくさんいます。年3回実施して欲しいという要望もありますが、指導員等の確保が難しく実施できない状況です。今後、指導員の確保を検討していきたいです。



かまど炊きご飯、美味しくな～れ

*団体概要

平成15年10月 有明開田の村管理組合発足

平成18年1月 町村合併により志布志市開田の村管理組合に名称変更

【目的】 開田の歴史を整理し継承する場、本市の農業の歴史や将来を展望する場、農業や自然体験学習の場、高齢者の生涯現役実践の場、市民をはじめ異年齢・異業種・田舎と都市などの交流の場として、施設の良好な管理運営を行い、日本一豊かな田舎暮らしの郷づくりに寄与する。

【構成】 組合長・副組合長、監査役・事務局職員の8名（男性7名、女性1名）である。

● 児童養護施設等に暮らす子どもたちとの音楽・ダンスプロジェクト ●

実施団体／リズム・ミーツ・ピープル

- 活動期間／11月6日（日）～2月12日（日）10回
- 活動場所／東京都内リハーサルスタジオ
- 募集地域／東京都内全域
- 募集対象／小学生（1～6年生）、中学生、高校生
- 募集方法／チラシ（配布先：都内児童養護施設）
- 構成員数／3人
- 連絡先／リズム・ミーツ・ピープル事務局 MAIL：r.meets.people@gmail.com



振付けを相談して考える



みんなで合唱＆合奏

*活動のねらいとポイント

表現活動の中で参加者同士の創造的な関わり合いを生み出し、自己肯定感を高めることをねらいとしています。

具体的なプログラム名	主なポイント
演奏・作詞ワークショップ	タイコやピアノ、ギターなどを感じるままに演奏したり、言葉遊びからイメージを広げて詩を考える。
ダンスワークショップ	言葉だけに頼らず、身体をつかったふれあいを通して関わり合うことや、音楽に合った振付を考える楽しさを味わう。
描画ワークショップ	大きな紙やTシャツに、つくった歌詞や音楽からイメージを広げて描くことで表現することを楽しむ。

*参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 レクリエーション保険に加入する。活動場所の下見や施設職員との打合せも行い、危険箇所や対応方法を確認する。
- 【健康管理】 事前に参加児童の施設職員と連携しながら個々の健康状態、要配慮事項を明確にしておく。活動中にも水分補給や休憩をとり、子どもたちの健康状態に気を配る。

＊活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
11月6日	10:00～12:00 (全日程)	参加者同士の自己紹介や演奏やダンスのデモンストレーション、楽器体験
11月13日		講師のオリジナル曲をうたったり、コール＆レスポンスでリズムや言葉遊びを楽しむ
11月27日		音楽に合わせて感じたまま踊ることや、誰かと一緒に身体を動かすことを楽しむ
12月11日		歌・ダンス・楽器など子どもたちの希望に分かれてグループで活動する
12月25日		演奏のアイデアを出し合ったり、振付けを相談して考える
1月8日		誰かと踊ることや、振付の練習、即興で音楽に合わせて踊ってみる
1月15日		しりとりや要領でお話をつくるように歌詞を考えて、絵を描く
1月22日		合奏して音を合わせることや歌詞を楽しんでうたう
2月5日		音楽からイメージしてを描いたり、合奏や合唱の楽しさを深めていく
2月12日		まとめの活動として合奏、合唱を聴き合ったり、感想を伝え合う

＊活動の成果と課題

表現活動を介して、子どもたち同士や指導者等大人も含めた多様な立場の人が交流することができ、参加者のコミュニケーション能力や自己表現力を伸ばすことができました。また、アーティストならではの個性的な音楽やダンスとの出会いは新鮮な体験となりました。アーティストは子どもたちのどのようなアイデア・表現も受け入れ認める存在だったので、子どもたち同士も互いを認め合い、安心感を持って活動が続ける事ができたように思われます。また、普段と違った環境、新たな人間関係の中で表現する喜びを味わい自信を持てたことは、自立支援にもつながる体験となると考えています。参加者の興味、関心は少しずつ異なるので、個々を尊重し、且つ全体で共有、交流を生む指導者の導き方は、今後も更に工夫が重ねられると思います。



身体をつかったふれあいを楽しむ



Tシャツにお絵描き

＊団体概要

- 【活動内容】 困難な状況にある方々に、芸術や文化の視点から関わることで、行政では難しい福祉と芸術という垣根を越えた多様な支援の在り方を模索しながら活動しています。児童養護施設でのライブコンサートの開催等もコーディネートしています。
- 【構成】 舞台制作や、音楽やダンス、美術等のワークショップやアウトリーチ活動のコーディネートに実績のあるメンバーで構成されています。年齢は30代～40代。男性2名、女性1名です。
- 【背景】 音楽やダンスなどの身体表現活動の場を届ける事で、子どもたちから大人までのあらゆる人々の生活が生き生きとしたものになることを目指し、貧困や経済的格差、障がい等の様々な事情から生じる、いわゆる社会的弱者と言われる方々も対象に含んだ実践を行うために、任意団体として活動を開始しました。

◎ 高校生による第7回震災復興支援現地ボランティア ◎ 実施団体／がんばろう！つばさネットワーク

- 活動期間／7月15日（金）～7月19日（火）2泊5日 ●活動場所／宮城県気仙沼市 岩手県陸前高田市
- 募集地域／大阪府茨木市 松原市 大阪市住吉区 同東淀川区、堺市南区
- 募集対象／高校生、一般成人
- 募集方法／・チラシ（配布先：大阪府茨木市、松原市、大阪市住吉区 東淀川区、堺市南区の高校）
・その他（ユネスコスクール15校に配布）
- 構成員数／8人
- 連絡先／代表 松野雅一 事務局：〒567-0842 大阪府茨木市五十鈴町5-37-101
事務局長 藤井伸二 TEL：090-3271-4292 MAIL：snjffi@leto.eonet.ne.jp



気仙沼市階上地区海岸での防潮林の植林



気仙沼市大島での被災と復興の聞き取り

*活動のねらいとポイント

東北の豊かな自然と人間の関係を学びます。更に被災体験に寄り添い自らの「生」を見つめ直すプロセスを実現します。

具体的なプログラム名	主なポイント
気仙沼の生業である水産業を学びカキ養殖の復興を支援する	気仙沼大島でカキ養殖のイカダ、加工場の作業をすることで、海の豊かさに触れるとともに、被災された漁師の思いに寄り添う。また、八瀬の農家に宿泊。山の幸の豊かさに触れる。
津波被害を学び、「海辺に森を作る」活動を支援する	気仙沼階上地区で木に掴まって何人もが助かった現地を視察し、経過を聞き取りした後、「海辺に森を作る」活動を支援して植林作業、除草作業を行う。
津波被害を学ぶとともに高校生交流で未来を展望する	震災遺構が減ってきているなか、陸前高田で語り部の方から聞き取りを行い、写真や遺物展示で、1,000年に一度の津波被害について学ぶ。気仙沼高校で被災地の未来について高校生同士意見交換する。

*参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 事前に参加者の既往症について、本人確認し、激しい作業などはさせない。
近隣の病院を確認しておき、緊急の場合は、病院に搬送する担当者を決めておく。
- 【健康管理】 毎日の朝礼を実施し、健康状態を点検する。調子の悪い場合は活動を見合わせる。

*活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7月15日	20:00	大阪を出発。バスで移動。
7月16日	12:30	気仙沼大島にて、津波被害についての聞き取り。
	13:30	気仙沼大島にて、カキ養殖イカダの復旧作業とカキ養殖のイカダを見学、養殖作業。
	19:00	八瀬の里山の、農家にホームステイ。可能な家庭では食料の収穫作業。
7月17日	9:00	陸前高田の旧市街地視察と語り部の方から聞き取り。
	11:30	階上地区にて「海辺に森を作ろう会」の活動を支援して植林作業を行う。 近接している岩井崎での津波被害状況と助かった方からの聞き取り。
	19:00	八瀬の里山の、農家にホームステイ。可能な家庭では食料の収穫作業。
7月18日	9:30	気仙沼高校との交流。
	12:00	気仙沼海の市などで復興の進捗に学ぶとともに昼食。
	13:50	出発。
7月19日	4:30	大阪帰着、解散。



気仙沼大島浦の浜にて記念撮影

*活動の成果と課題

5校（春日丘高、北摂つばさ高、松原高、他2校）計42名の高校生が参加して、自然と共に生きる人々の生き様に触れるとともに、被災地に心を馳せ自分の「生」について見つめ直すプロセスを実現できました。

今後の課題としては大阪府の参加者拡大を実現し、被災地での現地活動や被災地高校生との大阪での交流活動を連携・継続することです。



旧「道の駅高田松原」の視察と聞き取り

*団体概要

【設立年月日】平成23（2011）年4月22日（活動年数6年）

【ホームページ】<http://www.osaka-c.ed.jp/hokusetsutsubasa/network/>

【目的】「困ったときは、お互いさま」という相互扶助、お互い尊重しあう人権社会の担い手の育成。

【活動場所】大阪府立北摂つばさ高等学校

【経過と事業内容】東日本大震災に対する高校生の「何かしなければ」という声を受け、PTA元役員、教員・地域の有志8名（当時、40代2名、50代6名、男性）で団体を結成、復興支援活動を開始する。高校生の現地ボランティアを行うと共に、被災地の高校生を茨木に招待、地域の自治会などの協力により募集した家庭にホームステイしてもらい高校生交流を行ってきました。

【活動の実績】気仙沼現地ボランティア8回（2011年2回、2012年1回、2013年1回、2014年1回、2015年1回、2016年2回）で参加した高校生は合計339名。宮城県から招待した高校生は6回で166名。2011年以来、阪急茨木市駅前募金を56回実施し高校生のべ2,496名が参加、気仙沼にお届けした義援金は9回で計1,394,808円。熊本地震の支援募金2回を高校生59名で実施、343,297円を西原村たんぽぽハウスに、鳥取地震の支援募金3回を高校生134名で実施、90,433円を倉吉農業高校にお届けしました。（2017年3月31日現在）

◎ KOJIMA ドリームキッズタウンフェス2016 ◎

実施団体／一般社団法人 児島青年会議所

- 活動期間／5月8日（日）1回
- 活動場所／クルクルセンター 多目的広場
- 募集地域／倉敷市内全域
- 募集対象／小学生（4～6年生）、保護者
- 募集方法／・チラシ（配布先：倉敷市内小学校全校） ・ポスター（掲示先：市民交流センター）
- 構成員数／39人
- 連絡先／岡山県倉敷市児島味野2-2-90 瀬戸商工ビル5階 TEL：086-472-9510



一番人気のパティシエブース



初めてのネイルアート体験

*活動のねらいとポイント

職業体験を通して子供たちに学校や家庭では教わることのできない「働くこと」の意味や目的、喜びや厳しさを知ってもらいます。

具体的なプログラム名	主なポイント
職業体験	様々な職種の仕事を実際に体験する事で、将来なりたい職業や夢や目標を見つけてもらう。
消費体験	仕事をして稼いだ給料で参加者が持って来たリサイクル品を買う事で「働くこと」の意味や目的、喜びや厳しさを知ってもらう。
手紙タイム	今回見つかった夢や目標を未来の自分への手紙、親御さんからはその様子やアドバイスを未来の子供たちに残す事で、職場体験時の一助としてもらう。

*参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 事前に会場内の危険箇所をチェックし、危険な道具や機械を使うブースはスタッフ・ボランティアを多く配置し子供たちの行動に気を配った。また親御さんにも注意してもらうようお願いをした。
- 【健康管理】 スタッフ・ボランティアで子供たちの様子に気を配り、体調の変化や様子の変化に素早く気付き対処するようにし当日は受付で健康状態をチェックした。熱中症の心配もあるので帽子の着用、こまめな水分補給を徹底した。

*活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
5月8日	8:00	受付
	9:00	開会式
	9:30	職業体験 ①警察②消防士③畳作り④デニム⑤パティシエ ⑥名刺作成⑦大工⑧左官⑨ガーデニング⑩塗装 ⑪タイル⑫ネイル⑬陶芸⑭染物⑮塩づくり ⑯いかなご講習
		消費体験 職業体験をして得た仮想通貨を使って、リサイクル品を購入する
	12:00	昼食
	12:30	伝統芸能体験
	13:30	職業体験・消費体験
	15:00	お手紙タイム 子供たちは、職場体験がある中学二年生での職業の選択に役立つように、中学二年生になった未来の自分への手紙を書く 保護者の方は、将来の夢や目標を持つきっかけとなるように、中学二年生になった未来の我が子への手紙を書く
	15:30	解散

*活動の成果と課題

今回の活動を通して子供たちには様々な仕事を体験してもらい夢や目標、なりたい職業が見つかったという声や次の開催を望む声もたくさん聞きました。また仕事をし給料をもらいそのお金で消費体験をする事で、「働くこと」の意味や目的、喜びや厳しさも少しは分かってもらえた気がします。ただブースによって人気のバラつきがあり人気のブースは抽選となった為、体験したい職業が体験できなかったといった声やもう少しブースの数を増やしてほしいなどの声もありました。課題として募集人数に達しなかった点があげられます。広報の仕方、実施日時の設定、参加条件、拘束時間など様々な要因が考えられますが周知徹底、人集めの難しさを実感しました。



将来は立派な家を建てるぞ！！



和の心、ミニ畳づくり

*団体概要

当青年会議所は昭和31年7月5日に全国で97番目に発足しました。以来、倉敷市児島（旧児島市）を活動基盤とし、地域に根差した青少年事業、まちづくり事業を展開してきました。「明るい豊かな社会」の実現を理想として公益事業を企画運営しております。青年会議所は「明るい豊かな社会」の実現を理想とした次代の担い手たる責任感を持った20歳から40歳までの指導者たらんとする青年の団体です。



◎ ミュージアムキッズ！全国フェア ◎

実施団体／こどもひかりプロジェクト

- 活動期間／6月25日（土）～6月26日（日）1回 ●活動場所／仙台卸商センター産業見本市会館サンフェスタ
- 募集地域／仙台市周辺と東北地方を重点的に、全国の美術館・博物館で募集
- 募集対象／未就学児（2～6歳）、小学生（1～3年生）、保護者
- 募集方法／・チラシ（配布先：仙台市内小学校、全国の美術館等）
 - ・ポスター（掲示先：仙台市内小学校、全国の美術館・科学館・水族館等）
 - ・広報誌（ミュージアムキッズ！） ・その他（こどもひかりプロジェクトホームページ）
- 構成員数／8人
- 連絡先／〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 兵庫県立人と自然の博物館内 こどもひかりプロジェクト
TEL：090-9119-2005（代表：清水） MAIL：amk@kodomohikari.com
URL：http://www.kodomohikari.com



骨と化石の研究室



会場風景

*活動のねらいとポイント

全国のミュージアムが集結して子どもたちに多種多様な体験プログラムを提供し、自然科学や芸術文化に親しむ心を育みます。

具体的なプログラム名	主なポイント
大きな絵を描こう	美術館学芸員の指導により、5m×10m程度の巨大なキャンバスに、手足を使って自由に絵を描き、非日常の体験を満喫する。
いどうこんちゅうかん	NPO 法人専門スタッフの指導により、多種多様な生きた昆虫に直接触れるプログラムを実施し、小さな命を体感する。
小さな化石のレプリカづくり	自然系博物館学芸員の指導により、アンモナイト化石の実物に触れ、プラスチック粘土を用いたレプリカを制作する。

*参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 転倒事故等の防止のため参加者が多い場合の動線を想定し、什器等の配置に留意した。
スタッフを多く配置し、人の目による安全確保を図った。
- 【健康管理】 参加者の健康に万全を期すため、空調設備による会場の温度管理を行った。

＊活動の日程・内容

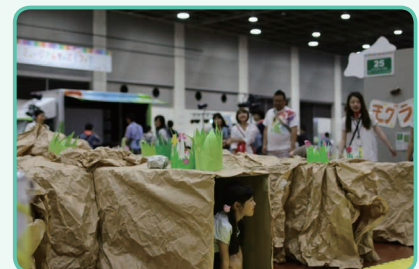
月/日	時間帯	プログラム内容
6月25日	14:00～19:00	6月25日(土)は47のプログラムを、26日(日)は、45のプログラムを、連続的に実施しました。主なものは、つぎのとおりです。
6月26日	10:00～15:00	【フロアでのワークショップ】 ・きみのキン肉でロボットがうごく？！(日本科学未来館) ・鳥と鳥かご(静岡科学館・く・る) ・雪の結晶を見よう、作ろう。え？ヒグマもやってくる！(札幌市青少年科学館) ・スチレンペーパーで飛びものをつくろう(青森県立三沢航空科学館(日本宇宙少年団みさわ分団)) ・ワクワク、お月さんをまわしてみよう(加古川総合文化センター・姫路科学館) ・虹いろ星座万華鏡をつくろう(加古川総合文化センター・姫路科学館) ・しんきろうってなに？(魚津埋没林博物館) ・貝でキラキラストラップづくり(新江ノ島水族館・なざさの体験学習館) ・さわって感じる海の生き物(移動水族館)(アクアマリンふくしま) ・実験・発見 海の生き物(移動水族館)(東京都葛西臨海水族園) ・モグラのトンネル(キッピー山のラボ・仙台市太白山自然観察の森) ・いどうこんちゅうかん(NPO法人こどもとむしの会) ・化石のレプリカづくり(兵庫県立人と自然の博物館) ・骨と化石の研究室(沖縄県立博物館・美術館) ・石であそぼ！(萩博物館) ・不思議なひもづくり ループで組紐体験！(兵庫県立考古博物館) ・「せっき」であそぼ！(地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場) ・火山爆発実験(雲仙岳災害記念館) ・スタンブでうちわをデザインしよう！(京都国立博物館) ・のまおいのサムライになってみよう！(南相馬市博物館) ・「紅」ってどんな色？ お守りづくりとお化粧たいけん(伊勢半本店 紅ミュージアム) ・つくってみよう！おにがわら たいけんしよう！アジアの文化(九州国立博物館) ・ちょっと昔とはるか昔のものくらべ(魚津歴史民俗博物館) ・石に絵を描こう・ストーンペインティング(埼玉県立川の博物館) ・モザイクでカラフルマグネット(美濃加茂市民ミュージアム) ・つくるべ〜！やじろべ〜！(キッズプラザ大阪) ・クリノリンを試着しよう&ドレスのぬり絵(神戸ファッション美術館・神戸アートビレッジセンター・AtelierS2) ・ひっかきはなが(愛媛県美術館) ・大きな絵を描こう！(福岡市美術館・大阪新美術館建設準備室・福岡アジア美術館) ・ペットボトルキャップであそぼ！〜つもつタワーに挑戦&コマ ちづくり〜(岩手県立児童館いわて子どもの森) 【特設ステージ】 ・石器づくりショー(地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場) ・ワクワクおもしろ実験ショー！(ムシテックワールド) ・トラりん登場！(京都国立博物館) ・銀河のはてまで行ってみよう！〜宇宙さんぽ〜(日本科学未来館) ・かがくアニメ(日本科学未来館) ・ミュージアムワールドのプリンセス！(神戸ファッション美術館・神戸アートビレッジセンター・国立淡路青少年交流の家・AtelierS2) ・むしとりのたつじんショー(兵庫県立人と自然の博物館) ・てんもんクイズ大会(明石市立天文科学館)

＊活動の成果と課題

当初の計画以上に多数のミュージアムの参画が得られ、これまでにない多彩なプログラムを提供することができました。また、2日間で6,300人の来場者があり、小さな子どもたちを対象とした本格的なプログラムに対する大きなニーズが感じられました。参加者は特定の分野に偏らず多くのプログラムを体験しており、好奇心と学ぶ意欲を高めるという本活動のねらいは、十分に達成されたと考えています。課題としては、じっくり体験してもらうために定員を設けたプログラムについては、整理券がすぐになくなってしまい、楽しみにしていた子どもたちに残念な思いをさせてしまうことがありました。しかたない部分もあるのですが、プログラム開発の余地を感じました。



大きな絵を描こう！



モグラのトンネル

＊団体概要

東日本大震災を契機に、子どもたちに夢を描く場を提供したい、との思いから、2011年に活動を開始した任意の団体です。代表者は博物館で長くボランティア活動をしている女性で、構成員は博物館・美術館の学芸員らが中心です。構成員は少ないですが、活動を行うたびに、さまざまなミュージアムのスタッフに声かけをし、参画者を募っています。構成員や参画者は、7割ほどが女性で、教育普及を担当する職員が多いです。

博物館・美術館は「展覧会を見るところ」というイメージが強いですが、教育普及活動も活発に行われています。そこで、とくに子どもたちを対象としたワークショップを専門的に扱う雑誌「ミュージアムキッズ！」を制作し、2015年から年2回発行しています(ホームページでご覧いただけます)。

また、ユーススタッフ(大学生)の育成に取り組んでおり、「ミュージアムキッズ！」誌の編集や、本助成活動のような機会に、積極的に参画してもらっています。

◎ 親子で楽しむののはな文庫 おはなし会 ◎ 実施団体／ののはな文庫

- 活動期間／4月16日（土）～2月25日（土）
- 活動場所／特定非営利活動法人大地 ののはな文庫
- 募集地域／長野県 新潟県
- 募集対象／未就学児（1～5歳）、小学生（1～6年生）、保護者
- 募集方法／・チラシ（配布先：特定非営利活動法人大地 幼稚園・小学校、他）
・広報誌（文庫便り） ・その他（インターネット）
- 構成員数／25人
- 連絡先／ののはな文庫 TEL：026－253－8902



定例土曜日文庫お話し会



文庫の部屋お話し会

*活動のわらいとポイント

読書好きの子供を育てるとともに、耳で聞く読書を通じて、健やかに子供が育つことを目指し、よい親子関係を構築に寄与することを目指します。

具体的なプログラム名	主なポイント
おはなし会	おはなし（素話）絵本の読み聞かせを、集まって聞き、皆で物語の楽しさを共有する。季節感のあるものも取り入れ、生活体験を膨らませることに寄与する。
個別の読み聞かせ	1人または2人に対して、その子が選んできた本（事前にスタッフで選書）も読み、安心感と幸福感を感じながら物語の世界を楽しんでもらう。大人も読んでもらう楽しさを体感してもらう。
わらべうたの時間	親子または友達同士、肌と肌を触れ合いながら、わらべうたで遊ぶ楽しさ、心地よさを感じてもらう。親子の触れ合いの良い手段になることを目指す。

*参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 施設内に危険箇所がないかどうか確認する。
 【健康管理】 室内換気の徹底、気温の寒暖の注意、水分補給の促しを行う。

*活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
4月16日		個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(春のお話)
	13:00～14:00	おはなし会・選書アドバイス
	14:00～14:50	わらべうたの時間
	14:50～15:30	個別の読み聞かせ・本の貸出
	※上記3つの活動を各活動時間内で実施。	
5月21日	13:00～15:30	個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(世界のお話)
6月5日	10:30～15:30	個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(年齢別のお話)
6月25日	13:00～15:30	個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(雨のお話)
7月6日	13:00～14:00	個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(小さな子供の為のお話し会)
7月23日	18:00～20:00	個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(夏の夜のお話し会)
8月11日	12:00～15:00	個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(夏休みお話し会)
9月3日	13:00～15:30	個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(秋のお話し会)
10月8日	13:00～15:30	個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(秋のお話し会パートⅡ)
11月3日	10:00～12:00	個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(年齢別 野外のお話し会)
12月11日	12:00～14:30	個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(冬のはじまりのお話し会)
12月23日	17:00～19:00	個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(冬の夜のお話し会)
1月14日	13:00～15:30	個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(ま冬のお話し会)
2月25日	12:00～15:30	個別の読み聞かせ、わらべ歌を含むお話し会(春よこい！お話し会)

*活動の成果と課題

どの回もほとんど天気に恵まれ、たくさんの親子が参加してくれ、おおいに盛り上がりしました。立地的に中だけでなく、文庫の外でも楽しめるのが魅力になっていると思います。この活動に参加されることによって、親子で本に興味を持ち、その楽しさと大切さに気付いてくれた親子が多かったようで、ここに来る時だけでなく、その気持ちを家にも持ち帰ってくれたように思います。このような意味で活動の目的の達成度は高かったと思います。これが持続、定着し、そしてさらに広がっていくにはどのようにしていけばよいのか、今後の課題でもあります。



幼児親子お話し会とわらべうた



秋の親子お話し会小学生

*団体概要

文庫を開館し、どれを選んでも真に子供に喜びを与える本を本棚に並べ、読み聞かせや本の貸し出しをしています。

おはなしの配置や本の紹介を近隣の小学校へ行っています。

特定非営利活動法人大地と協力して大きなイベントを開催しています。

構成員は、特定非営利活動法人大地 幼児教室の保護者又は、OBの保護者が中心で、本やお話に興味のある方で構成されています。(20代2名、30代7名、40代10名、50代6名)

約13年前に小さな図書館をこの町に(図書館がない)という思いで開館しました。

＊絵本専門士＊

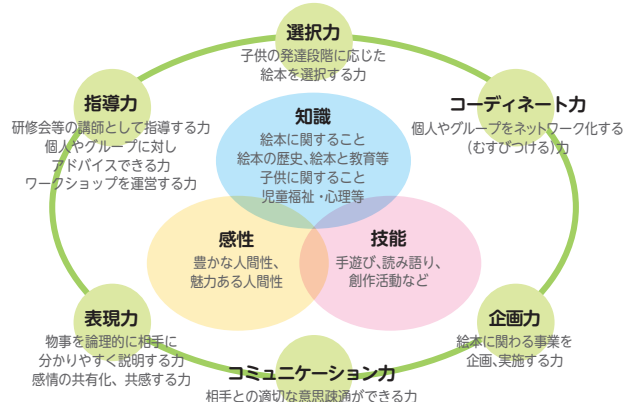
◎絵本専門士(絵本のスペシャリスト)とは

絵本専門士とは、絵本に関する高度な知識、技能及び感性を備えた絵本の専門家です。子供の読書活動の重要性、とりわけ絵本と親しむことや絵本の読み聞かせの大切さが指摘される中、絵本の魅力や可能性を伝える指導者として大いに期待される存在です。

絵本専門士養成制度は、平成26年に絵本に係る有職者からなる絵本専門士委員会の提案を踏まえスタートした制度であり、国立青少年教育振興機構において実施しています。平成29年春までに約160名の絵本専門士を送り出し、全国各地で活躍しております。

絵本専門士の役割は、読み聞かせやおはなし会、ワークショップなど実際に本を使って行う取組み、絵本に関する知識を持って行う指導・助言、絵本に関する自らのネットワークを活かした人的・物的コーディネートなど幅広く、活動の場所も幼稚園や学校から図書館、医療機関まで様々です。

絵本専門士に望まれる主な資質・能力



◎“絵本専門士”養成講座

絵本専門士養成講座は、絵本専門士委員会が策定するカリキュラムと修了課題により構成されます。

カリキュラムは、絵本に関する事業の企画・実施や指導などを行う際、絵本専門士として備えるべき能力を各科目に定め、実施しています。また、絵本に関する多様な領域の専門家や実践家を講師とし、講義、演習等の様々な形態で、少人数の受講者にきめ細かい指導や密度の高い授業を提供しています。

修了課題は、全ての授業を受講した後、絵本専門士として必要な資質・能力を備えているかどうか確認するため、レポート等の方法で実施されます。

●絵本専門士養成講座カリキュラム骨子(第4期) (1授業あたり90～120分)

分野	科目	授業数
知識を深める	絵本論	5
	絵本の体系・ジャンル	3
	絵本と出会う	4
技能を高める	絵本の世界を広げる技術	3
	絵本を紹介する技術	3
	おはなし会の手法	2
感性を磨く	絵本の持つ力	1
	心に寄り添う絵本	1
	絵本のある空間	1
	子供の心をとらえるもの	1
	大人の心を豊かにする絵本	1
	ホスピタリティに学ぶ	1
	絵本が生まれる現場	2
	オリエンテーション	1
	ディスカッション	1
	合計	30



絵本専門士養成講座の様子



～ 絵本の魅力と可能性を伝えるスペシャリスト ～

◎絵本専門士として

平成27年春に第1期絵本専門士が認定されて以降、地元のケーブルテレビの子育て番組内にて、0～2歳向けの絵本の紹介コーナーを担当したり、市の「子ども読書活動推進会議」委員として、子供の読書活動の推進に関する調査等に参画したり、絵本専門士数名でグループを結成し、おはなし会などのイベントを企画・運営するなど、全国各地で様々な形で活動を行っています。

絵本専門士3名に養成講座を受講して学んだこと、現在、取り組んでいることについて述べてもらいました。



柴田 香さん
福岡県・司書

地方在住、3歳・1歳の母である私にとっては、受講前後の課題はもちろん、子供達の体調管理、台風や大雪の天候アクシデントまで、色々なハードルを毎回クリアして受講したことが一番印象に残っています。本当に家族の理解とバックアップがあってこそできたことだと感謝しています。大変なことも多かったですが、地方にはなかなか聞くことのできない先生方の講義はすごく貴重な学びの時間で、日本全国から集まった同期の仲間たちから大きな刺激を沢山受けることができました。この時間と経験が認定後の活動にも大いに活かされていると感じています。



浦野 規子さん
神奈川県・書店員

私が勤務する書店の限りある空間と時間で、絵本専門士として活動するにはどうすればいいのか、またアピールする何か良い方法はないかと、講義を重ねるごとに真剣に考えるようになりました。そこで、同期の専門士の話をヒントに「絵本専門士コーナー」を店頭に設けることを思いつき、賛同を得た仲間の専門士に順番に3か月間、コーナーの担当をお願いしました。担当して頂いた方には、売り場のグレードアップと売り上げにも大いに貢献して頂き感謝しております。お客様から、絵本専門士についての問い合わせと選書依頼も徐々に増え、効果は充分にあったと考えます。そうしたお客様とのコミュニケーションから地域との繋がりもでき、絵本を推進するグループに絵本専門士としてお招きいただき、店頭を一步出た活動にも携わることができました。これからも、「絵本専門士コーナー」をできるだけ長く続けていき、この書店から絵本の魅力を発信したいと思います。



半井 美和さん
大阪府・保育士

絵本専門士の同期が勤務している書店で絵本専門士コーナーを設けることになり、担当第一号として、選書と私にとって初めてのポップ作りを経験させていただきました。その事がきっかけで、私の自宅近くの書店でも私が監修した絵本専門士コーナーを常設していただくことになりました。また現在勤めているこども園の他に、絵本専門士の活動に興味を持って下さった事業所内保育施設での仕事や、外部団体からの講師依頼等、活動の幅が広がりました。絵本専門士と言葉にする度に責任の重さを感じています。絵本専門士養成講座を通じて、自分の苦手分野・得意分野を知る事が出来たので、得意分野を活かしながら、私色の絵本専門士を目指していきます。



○絵本専門士に関するお問い合わせ先

国立青少年教育振興機構 教育事業部企画課

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 TEL : 03-6407-7713 FAX : 03-6407-7699

MAIL : ehon-senmonshi@niye.go.jp

「海でも、海に行かなくてもできる！」 多様な研究者と作る体験型海洋学習教材『Lab To Class』 実施団体／特定非営利活動法人 海の環境教育 NPO bridge

- 教材名／「海でも、海に行かなくてもできる！」多様な研究者と作る体験型海洋学習教材『Lab To Class』
- 連絡先／海の環境教育 NPO bridge
〒108-0072 東京都港区白金1-25-25 アパルトマン白金4C
TEL：03-6409-6057 MAIL：info@npo-bridge.org URL：http://www.npo-bridge.org
- 教材の入手先／http://lab2c.net/

*団体プロフィール

東京周辺に住む20～60代の多様なメンバー10名程が中心となり、「持続可能な社会の実現に向けて行動する人材の育成を目的」に、海の自然や海洋生物をテーマとする環境教育事業、およびネットワークの構築等を行っています。現在は海辺の環境教育フォーラム事務局との協働で進められる『海洋学習教材 LAB to CLASS』プロジェクトの事務局を担っています。

*教材利用のポイント

地理的・経済的な理由を越え、全国の小中学生に「海の自然」と「海と自分たちの（生活との）つながり」を体験的に学んでもらうための、“誰でも安易に実施ができる”パッケージ教材です。

教材のテーマは多様。子どもや指導者の興味に合わせ、WEBサイトより無料でダウンロード・視聴ができる教材を使って、指導者や保護者が身近な場所で海の体験学習を行うことが可能です。



「海の生きもののイス取りゲーム」指導者用資料（ファクトシート）



実施風景（解説動画映像より）
_サンゴパズル



教材『餌の餌の餌は何？（食物連鎖）』カード



WEBサイト「LAB to CLASS」TOPページ

*教材の概要

■背景とねらい：海洋国家である日本において、海洋自然の保全と利用（共生）は将来にわたり欠くことの出来ないテーマです。しかし、多様な課題を自らのこととして理解し行動するために有効とされる体験活動は、海洋自然においては地理的な問題やそこにまつわる経済的な理由等により、限られた層の子ども達の学習に留まっていました。そこで、すでに全国で実施がされている優秀な海洋学習教材を集め、体験活動や教育の専門家のアドバイスの元、海から離れた内陸部の室内でも実施が可能な教材として再編し、全国各地からアクセス可能な『海洋学習教材サイト LAB to CLASS』を構築し、頒布を行っています。

■利用対象：主に、小・中学生

■内容：

- ・「実施用教材」+「指導者用資料（解説動画・読み物資料・参考画像等）」のパッケージ教材：12種（平成29年度はさらに18教材を追加掲載予定）
- ・海洋関連のスペシャリストによる「連載コラム」：WEBサイトの認知アップ効果、および指導者の補足資料
- ・WEB公開授業：専門家によるワークショップやレクチャーに、遠隔地からも参加できる取り組み。平成28年度に実施した2回の公開授業はアーカイブとしてWEBサイト内に収録、随時閲覧が可能。

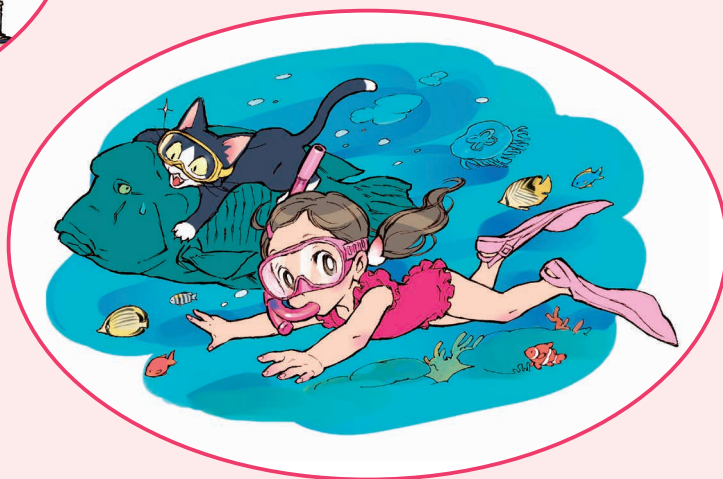
第1回：トドを頂点とする食物連鎖（実施・配信場所：アクアマリンふくしま）

第2回：イルカの体のしくみ（講師：国立科学博物館名誉研究員 山田裕）

■教材の活用・普及状況：北海道から沖縄まで広範囲に渡る小学校・放課後こども教室等での実施の他、海外青年協力隊のスタッフによる海外の子ども達を対象としたプログラムでの使用も報告されています。

*平成28年度助成活動で開発された教材一覧

団体名	活動名・教材名	教材 URL
公益社団法人 日本山岳会	親子で楽しむ山登りvol.4	http://www.jac.or.jp/oyako
一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団	読書活動の拡充を目的とした子ども向けマンガ紹介インターネットサイトの開発と公開	http://manga.iiclo.jp/
一般社団法人 こどもとみらい教育研究会	JSL対話型アセスメントに基づく話す・聞く・読む・書く能力デジタル判定テスト	http://e-dla.net/
特定非営利活動法人 教育支援協会北海道	見て学ぶ！～英語でコミュニケーション活動～ Ver.2	http://kyoikushien-h.com/mitemanabu/
特定非営利活動法人ぶるすあるは	子ども情報ステーション(精神障がいについて学ぶ教材)	http://kidsinfost.net/dream/
特定非営利活動法人 日本総合医学会	敵？味方なの？フシギいっぱい！実験で見つける「カビ」7つのヒミツ	http://kabi-himitsu.com
慶應SDMヒューマンラボ	幸せをつかむ4つの方法(仮)	http://lab.sdm.keio.ac.jp/maenolab/children/
全国視聴覚教育連盟	知っておどろく保存食！－日本人の知恵－	http://yume.zenshi.jp/hozon/
公益社団法人 大阪自然環境保全協会	チリメンモンスター☆スマホ図鑑	http://chirimon.jp/
特定非営利活動法人 自然体験活動推進協議会	めざせ！アウトドアマイスターⅡ	http://cone.jp/2017/07/24/6797/
特定非営利活動法人 海の環境教育NPO bridge	「海でも、海に行かなくてもできる！」多様な研究者と作る 体験型海洋学習教材「Lab To Class」(仮)	http://lab2c.net/
特別支援教育デザイン研究会	みんなで考える障がい児支援「わかった！なるほど!」	http://sn1.e-kokoro.ne.jp/wakatta/
ワクワク食育教室	おやつSOS－親子で学ぶおやつの選び方(仮題)－	https://oyatsu-sos.jp/
特定非営利活動法人 日本子守唄協会	子守唄の絵本(仮)	http://www.komoriuta.jp/ar/A16112917.html



◎ 日中韓子ども童話交流事業 ◎

- 事業期間／平成28年8月17日（水）～8月23日（火）6泊7日
- 実施場所／中国（北京市怀柔区）
- 参加者／小学4年生～6年生 99名（日本33名、中国33名、韓国33名）
参加経験者 22名（日本10名、中国3名、韓国9名）
- 主催／中国関心下一代工作委员会
- 共催／（中国）中国関心下一代工作委员会児童発展研究センター
（大韓民国）ソウル特別市教育庁、ソウル教育大学
（日本）日中韓子ども童話交流事業実行委員会〈子どもの未来を考える議員連盟、国立青少年教育振興機構〉

*事業の背景とわらい

日中韓子ども童話交流事業は、日本・中国・韓国の子供たちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知ってもらうとともに、相互理解と友情を深めることを目的として、平成14年の「日中韓国民交流年」を機に日本で開始しました。平成23年からは日中韓3カ国による巡回開催となりました。

また、平成27年からは、過去に本事業に参加し、現在は大学生や社会人となっている参加経験者同士が交流する「参加経験者交流会」を開催しています。

*世界に一つだけの創作絵本

本事業では、3カ国の子供たちがグループになり、協力しながらオリジナルの絵本を創作します。今年度はテーマである「種子（しゅし）」に関する物語を創作しました。体験したプログラムをもとに、絵本の主人公が困難を克服して友情の種子が大きく育っていくストーリーを、10人のグループメンバーが相談しながら世界に一つだけの絵本づくりに挑みました。



「種子」のテーマをもとにストーリーを考え中



1人1ページを担当して作成

*事業の日程・プログラム内容

月/日	時間帯	プログラム内容
8月17日	午後	開会式・オリエンテーション・グループタイム
8月18日	午前	国家動物博物館見学
	午後	中国科学技術館見学、結団式
8月19日	午前	万里の長城(慕田峪)見学
	午後	雁栖湖国際コンベンションセンター見学 専門家による「種子」についての講演
8月20日	午前	ラベンダー畑の観光、ぶどう狩り体験
	午後	中国の古武道の体験 グループ対抗の縄跳び大会、京劇のくまどりの体験
8月21日	午前	絵本読み聞かせ、絵本づくり①
	午後	絵本づくり② 日本・中国・韓国に共通する808文字の漢字学習と書道体験
8月22日	午前	絵本づくり③
	午後	さよなら夕食会 絵本の発表会、かくし芸大会
8月23日	午前	解散式 (宣言文の発表・交流の旗引き継ぎ)



描いたページをつなぎ1冊の絵本が完成

*参加者の声

- 言葉は通じなくても、みんなで力を合わせ、世界でたった一つだけの最高の絵本ができました。ぼくにとっての大切な宝物です。
(日本：小学6年生男子)
- 3カ国のみんなはお互いの言葉も、考えていることも違うのに、一緒に絵本を作れるのか、最初は心配でした。しかし、お互い話をしてみると、似たような経験をしている友達もいて、共感できる話が多く、一緒に協力して絵本を完成させた時は、とても胸がいっぱいになりました。
(韓国：小学5年生男子)
- 協力して取り組んだ絵本作りや童話交流、さまざまな活動を通して、お互いに理解を深め、異なる文化に触れ、視野を広げ、友情を深めることができました。同時に、自分で生活する力を身につけることができました。
(中国：小学6年生女子)



協力して創作した絵本の発表会



参加経験者による絵本メッセージの発表

*日中韓子ども童話交流日本人参加経験者交流会

およそ10年前に参加した参加経験者が、参加している子供たちとの交流や、参加経験者同士での協議を通して、持続的かつ主体的に参加経験者たちが交流していくための3カ国交流の在り方を考えました。また、プログラムを通して、3カ国の友好を誓うすべての人たちに向けてのメッセージ絵本を作成しました。

申請・採択状況

(8月1日現在)

平成29年度 活動区分別申請・採択状況

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	6,170	4,357	1,513,625
子どもの読書活動	737	538	151,751
教材開発・普及活動	35	10	59,487
合 計	6,942	4,905	1,724,863

平成28年度 活動区分別申請・採択状況

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	6,043	4,566	1,527,412
子どもの読書活動	736	568	157,430
教材開発・普及活動	51	15	96,220
合 計	6,830	5,149	1,781,062

平成29年度 都道府県別申請・採択状況

(単位：件)

都道府県	活動区分	申請	採択
北海道	体験活動	354	272
	読書活動	22	17
青森県	体験活動	53	37
	読書活動	5	4
岩手県	体験活動	43	26
	読書活動	6	3
宮城県	体験活動	85	57
	読書活動	10	6
秋田県	体験活動	43	28
	読書活動	3	3
山形県	体験活動	64	50
	読書活動	5	3
福島県	体験活動	90	58
	読書活動	10	9
茨城県	体験活動	107	79
	読書活動	7	5
栃木県	体験活動	94	64
	読書活動	18	15
群馬県	体験活動	94	47
	読書活動	5	4
埼玉県	体験活動	229	172
	読書活動	28	18
千葉県	体験活動	261	204
	読書活動	22	19
東京都	体験活動	933	645
	読書活動	95	64
神奈川県	体験活動	254	198
	読書活動	31	21
新潟県	体験活動	103	73
	読書活動	10	8
富山県	体験活動	19	15
	読書活動	2	1

都道府県	活動区分	申請	採択
石川県	体験活動	70	56
	読書活動	4	4
福井県	体験活動	32	28
	読書活動	4	3
山梨県	体験活動	95	58
	読書活動	8	7
長野県	体験活動	103	65
	読書活動	13	10
岐阜県	体験活動	111	92
	読書活動	6	4
静岡県	体験活動	117	81
	読書活動	12	6
愛知県	体験活動	240	146
	読書活動	30	19
三重県	体験活動	64	49
	読書活動	4	1
滋賀県	体験活動	88	60
	読書活動	14	9
京都府	体験活動	116	90
	読書活動	8	8
大阪府	体験活動	402	299
	読書活動	70	56
兵庫県	体験活動	245	174
	読書活動	33	29
奈良県	体験活動	88	61
	読書活動	12	12
和歌山県	体験活動	64	47
	読書活動	12	10
鳥取県	体験活動	24	16
	読書活動	2	2
島根県	体験活動	27	22
	読書活動	8	8

都道府県	活動区分	申請	採択
岡山県	体験活動	102	71
	読書活動	8	8
広島県	体験活動	42	28
	読書活動	5	4
山口県	体験活動	45	38
	読書活動	8	7
徳島県	体験活動	70	60
	読書活動	6	6
香川県	体験活動	56	44
	読書活動	10	5
愛媛県	体験活動	124	99
	読書活動	7	6
高知県	体験活動	61	29
	読書活動	10	7
福岡県	体験活動	305	192
	読書活動	50	30
佐賀県	体験活動	43	25
	読書活動	12	6
長崎県	体験活動	58	38
	読書活動	13	10
熊本県	体験活動	102	62
	読書活動	28	21
大分県	体験活動	40	28
	読書活動	4	1
宮崎県	体験活動	76	55
	読書活動	17	13
鹿児島県	体験活動	295	191
	読書活動	35	22
沖縄県	体験活動	39	28
	読書活動	5	4



* 子どもゆめ基金へのご協力を *



子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子供の体験活動や読書活動などの振興を図り、子供の健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することになっています。

下記の募金口座にて募金を受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

なお、子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

振替口座

口座番号	00150-5-371382
口座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な振替払込書を中に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀行名	三菱東京UFJ銀行	渋谷支店
口座番号	普通預金3025103	
口座名義	子どもゆめ基金	

子どもゆめ基金への支援

検索

「子どもゆめ基金」へ寄附いただいた皆様

平成28年度に「子どもゆめ基金」へご寄附いただいた主な方々です。

(あいうえお順・敬称略)

アスカ王国ふれあいの旅委員会	曾我部 國久
株式会社伊藤園	玉本 義和
特定非営利活動法人 思いをつなぐ会	株式会社八洋
勝又 洋子	村井 悠治
コカ・コーライーストジャパン株式会社	株式会社明和サービス
特定非営利活動法人 子ども文化ステーション	ライフカード株式会社
特定非営利活動法人 青少年育成ネットワーク・ウイング	

子どもゆめ基金ガイド2017

2017 年8 月発行

編集 独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部

発行 独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3 番1 号

電話 0120-579081 (フリーダイヤル)

URL <http://yumekikin.niye.go.jp/>

E-mail yume@niye.go.jp

全国の国立青少年 教育施設のご案内

宿泊体験学習に!

スポーツ合宿に!

研修に!

講演会に!

ミーティングに!

青少年の体験活動をサポートする
国立青少年教育施設が全国に28か所



国立オリンピック記念
青少年総合センター
(東京都渋谷区)

国立青少年交流の家

- | | | |
|----|--------------|------------|
| 1 | 国立大雪青少年交流の家 | (北海道美瑛町) |
| 2 | 国立岩手山青少年交流の家 | (岩手県滝沢市) |
| 3 | 国立磐梯青少年交流の家 | (福島県猪苗代町) |
| 4 | 国立赤城青少年交流の家 | (群馬県前橋市) |
| 5 | 国立能登青少年交流の家 | (石川県羽咋市) |
| 6 | 国立乗鞍青少年交流の家 | (岐阜県高山市) |
| 7 | 国立中央青少年交流の家 | (静岡県御殿場市) |
| 8 | 国立淡路青少年交流の家 | (兵庫県南あわじ市) |
| 9 | 国立三瓶青少年交流の家 | (島根県大田市) |
| 10 | 国立江田島青少年交流の家 | (広島県江田島市) |
| 11 | 国立大洲青少年交流の家 | (愛媛県大洲市) |
| 12 | 国立阿蘇青少年交流の家 | (熊本県阿蘇市) |
| 13 | 国立沖縄青少年交流の家 | (沖縄県渡嘉敷村) |

国立青少年自然の家

- | | | |
|----|---------------|------------|
| 1 | 国立日高青少年自然の家 | (北海道日高町) |
| 2 | 国立花山青少年自然の家 | (宮城県栗原市) |
| 3 | 国立那須甲子青少年自然の家 | (福島県西郷村) |
| 4 | 国立信州高遠青少年自然の家 | (長野県伊那市) |
| 5 | 国立妙高青少年自然の家 | (新潟県妙高市) |
| 6 | 国立立山青少年自然の家 | (富山県立山町) |
| 7 | 国立若狭湾青少年自然の家 | (福井県小浜市) |
| 8 | 国立曾爾青少年自然の家 | (奈良県曾爾村) |
| 9 | 国立吉備青少年自然の家 | (岡山県吉備中央町) |
| 10 | 国立山口徳地青少年自然の家 | (山口県山口市) |
| 11 | 国立室戸青少年自然の家 | (高知県室戸市) |
| 12 | 国立夜須高原青少年自然の家 | (福岡県筑前町) |
| 13 | 国立諫早青少年自然の家 | (長崎県諫早市) |
| 14 | 国立大隅青少年自然の家 | (鹿児島県鹿屋市) |

子どもゆめ基金についてのお問い合わせ

TEL : 0120-579081

E-mail : yume@niye.go.jp

URL : <http://yumekikin.niye.go.jp/>



National Institution For Youth Education

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1

TEL 03-3467-7201 (代表)

URL <http://www.niye.go.jp>